

すとともに、仙台から東日本大震災の教訓や知見を世界に発信します。このフォーラムの定期開催により、仙台・東北が防災の先進地として

関係者が仙台に集まります。防災の具体的なアイデアを創り出すこと、仙台から東日本大震災の教訓や知見を世界に発信します。このフォーラムの定期開催により、仙台・東北が防災の先進地として

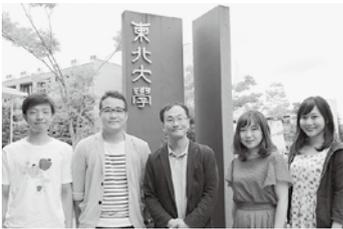
仙台で開催「世界防災フォーラム」①

11月25日～28日

国際会議が仙台で隔年開催

平成27年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議において、国際的な防災の取り組み指針「仙台防災枠組」が採択されました。この仙台防災枠組への取り組みを強力に牽引していくため、「世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台」が隔年で開催されます。これは昨年スイスのダボス市で開催された世界的な防災会議「国際災害・リスク会議」において、仙台での開催が決定したものです。

地域と連携して防災に取り組む



左から、東北大学課外・ボランティア活動支援センターの鈴木さん、山本さん、藤室特任准教授、千葉さん、南部さん

防災推進国民大会でセッション等を行う東北大学の課外・ボランティア活動支援センター取材しました。

「これまで、宮城や岩手、福島の被災地を訪れ、仮設住宅の掃除や復興公営住宅での足湯などの寄り添い活動などを行ってきました。昨年4月の熊本地震の際は熊本の学生と連携して活動を行い、東日本大震災の教訓やノウハウをお伝えしました。このような『防災の輪』が広がっていけばいいと思います」と話すのは山本賢さん。

あすと長町の復興公営住宅でお茶会を主催し、足湯や手芸などを通して地域住民との交流を大切にしながら活動を行ってきた千葉柚紀さんは、「防災ボランティア活動は継続が大切ですが、防災推進国民大会で、構えることなく気軽な気持ちで参加できるということ伝えたい」と意気込みを語ってくれました。

世界の防災に貢献し、また、復興状況や地域の魅力を継続的に発信し、参加者に体感してもらうことを目指します。

関連イベントとして、11月26日・27日に、仙台国際センターで「防災推進国民大会」と「防災産業展in仙台」が開催されます。防災推進国民大会では、防

災・減災活動に取り組む約90団体が、日頃の活動の成果を発信します。セッションやブース展示のほか、体験型イベントや消防車両等の展示など、家族で楽しめるプログラムが盛りだくさん。また、防災産業展では、最新の防災技術・製品に関する展示が行われます。

問い合わせ
防災環境都市推進室
☎214・8098、
FAX214・8497

市民の力で盛り上げよう

世界防災フォーラムでは、市民の方々もセッションに登壇し、一部は直接聴講することができます。また、市内で活躍するNPO法人や学生ボランティアなどの防災関係団体も、多くが防災推進国民大会に参加してブース展示やセッションなどを行います。市民の力で世界防災フォーラムや関連イベントを盛り上げ、成功させようと、着々と準備に取り組んでいます。



▲▶第3回国連防災世界会議での展示ブース(写真上)や昨年のダボス会議での伊藤副市長のプレゼンテーション(写真右)の様子



知って役立つ! ワンポイント防災講座

分散備蓄のすすめ

市では、災害に備えて1週間程度の水・食料の備蓄を推奨しています。普段食べ慣れているものを多めに購入し、消費しながら備蓄を続ける「循環備蓄」に併せて、備蓄品は1カ所にまとめて置くのではなく、複数の場所に分散して置くことをおすすめしています。1カ所ごとの保管スペースは少なくても済み、災害で一つの部屋が散乱して備蓄品が取り出せなくても、別の部屋の備蓄品を取り出すことができます。



間減災推進課 ☎214・3109、FAX214・8096